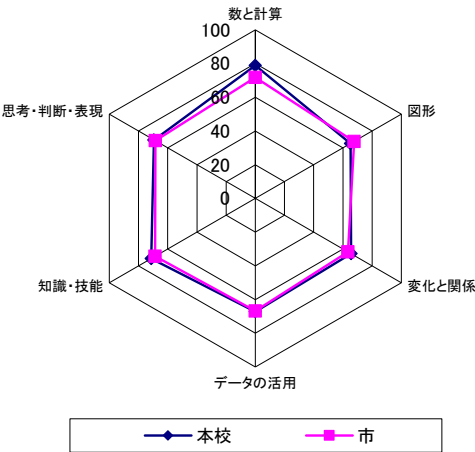


宇都宮市立東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.9	71.8	76.2
	図形	65.2	67.7	67.8
	変化と関係	65.6	63.4	62.7
	データの活用	67.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	71.3	68.6	70.7
	思考・判断・表現	69.4	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は78.9%であり、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ○分数の除法の文章問題に当てはまる2本の数直線と式を選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題、一方の文字の値から他方の文字を求める問題では市の平均を下回っており、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・2つの数量の関係について考える場面では、2本の数直線を使い問題を解く指導を繰り返し取り入れた。徐々に定着が図られていると考えられる。今後は、初めて授業において出る3学年から積極的に取り扱い様々な場面で活用できるように指導を行っていく。 ・問題文の場面を具体的に想起させたり線分図に表したりして正しく立式できるよう指導をし、定着を図っていく。
図形	平均正答率は65.2%であり、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題において市の平均を下回っており、課題が見られる。 ●三角柱の展開図を組み立てた時に重なる辺を求める問題において市の平均を下回っており、課題が見られる。	・三角形の内角の大きさの和を暗記させるだけでなく、内角の和から残った一つの角の大きさを求めさらに180度から引くといった段階を踏ませ、応用問題を多く取り入れた指導を行っていく。 ・立体の展開図の学習の際には、実際に身の回りにある立体を切って開くなど実体験を基にした指導を行うことで、頭の中でイメージできるようにしていきたい。
変化と関係	平均正答率は65.6%であり、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○基準量と比較量から割合を求める問題では、市の平均を上回っている。	・割合の単元において、2本の数直線を積極的に用いて指導を行ってきた。児童にも割合の問題を解く際には2本の数直線を用いることが定着してきた。今後も継続して行っていきたい。
データの活用	平均正答率は67.2%であり、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ●ドットプロットから中央値を求める問題において市の平均を下回っており、課題が見られる。 ●半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積の求め方を説明する問題において市の平均を下回っており、課題が見られる。	・代表値を求める問題において、まず平均値、中央値、最頻値などそれぞれの代表値がどのような意味を持つのか・どのように求めるのかを明確にしていける。また、身近な事象を題材として代表値を求める等、実感を伴う問題にも取り組ませ確実に定着するよう指導を行っていきたい。 ・図形の面積を求める場合に限らず、問題から立式した際に思考の流れを文章化する指導を繰り返し行い、論理的思考力を身に付けさせる。